



東 玖波中だより No.5



大竹市立玖波中学校 令和6年6月17日

学校教育目標 『『なりたい自分』に向かって、挑戦する生徒の育成』

発行責任者 小田 大介 文責 藤川 健二

中体連大会終わる ～稽古は試合の如く、試合は稽古の如く～

6月8日(土)に大竹市・廿日市中体連春季大会(広島県選手権大会予選)が開催されました。3年生にとっては、負けたら最後の大会でした。短時間ではありましたが観戦した競技では、3年生の試合にかける熱い思いがプレーに出ている様子が伝わってきました。観戦できなかった競技でも次の日の朝、同様の感想を聞くことができました。

6月11(火)の学校朝会では、3年生のこれまでの努力を労うと共に、大会を終えて思うことについて校長の講話がありました。その一部を紹介します。

○試合(本番)では「練習でやったこと以上のことはできない」

試合中にもっと練習しておけばよかったと思うことや練習してこなかった自分を責めることがあると思います。その時はそう思っても、いざ試合が終わって少し経つと忘れてしまいます。それでは成長できません。日にちが経過して「あ～あ、負けた。終わった。」とケロッとしているようでは、まだまだ本気ではなかったということです。また、悔しがる位なら日頃から必死に練習すればよかったのではないかと思う時もあります。そのくらい、日々の「練習」は大切なのです。

試合中、練習で積み重ねたことをやってみて実際に使えたら嬉しく手応えを感じることができます。練習すれば自分の力を実感することができます。ますます練習に熱が入り成長することができるのです。

この度、広島ドラゴンフライズがチャンピオンシップで優勝しました。そこにはチームの練習への取組み8ヶ条があります。

- 1 試合に勝つために『練習』をします。
- 2 『練習』で行っていることが試合に出ることを認識します。
- 3 やり得る全ての努力を『練習』で行います。
- 4 『練習』ではチームとしての共通理解を深めます。
- 5 怪我をしない強い体を作ります。
- 6 勝負に勝つ強いメンタリティーを作ります。
- 7 競争心を常に持ち、『練習』に取組みます。
- 8 足りないものを認識し、克服する努力を続けます。

○次回の試合までに1・2年生に期待すること

1 他校の先生やコーチに挨拶をすること

挨拶は基本の『キ』です。挨拶は勝負以前の問題です。大会が成り立つのは先生、コーチのお陰です。感謝の気持ちを持って挨拶をしましょう。

2 審判(試合の運営)ができること

試合の運営をするためには、競技のルールが分っていなければいけません。審判等できるということは、競技のルールを分っていなければいけません。競技者はルールを理解した上で、コートに立ち戦略通りプレーしなければなりません。ルールを無視して戦略などあり得ません。

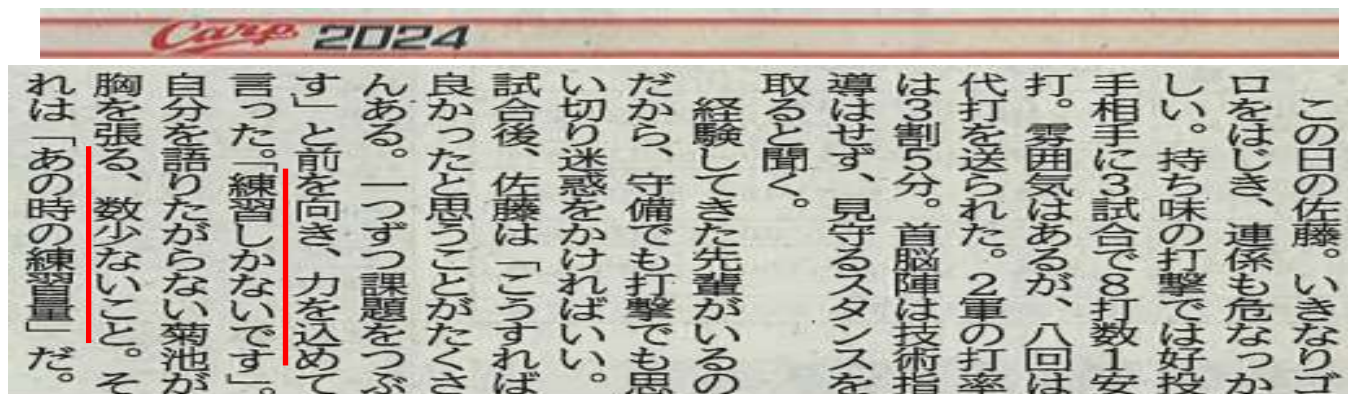
大会の様子 ～熱い戦いがそこにあった～



広島県選手権大会出場おめでとう

チームとして広島県選手権出場は叶いませんでしたが、個人で卓球部の門田七海さん、町田莉彩さん(いずれも3年生)が出場権を獲得しました。大竹市・廿日市市の代表として頑張ってくれることを期待しています。

6/13(木)中国新聞 ～球炎(一部抜粋)より～



保護者・地域の皆様

6/13(木)付のプリントで配布したとおり、延期しておりました、玖波中ドリームプロジェクト(文化・体育講演会)を7/1(月)13:50から開催します。保護者・地域の方も参加可能ですのでご案内いたします。詳細は玖波中学校HPにもアップしておりますので、ご覧ください。